

OCG

高難易度の施工管理を完遂

インドネシア・LRT延伸工事

オリエンタルコンサルタンツグローバル（OCG）を幹事会社とする共同企業体が施工監理を担当した「インドネシア国LRT（次世代型路面電車）ジャカルタフェーズ1

B（ヴェロドーム―マンガライ線）」が開業した。ジャカルタの都市部で既存路線を延伸する全長6・4キロ（高架5駅を含む）の建設工事

で同社は、「厳しい工期が求められる難易度の高いプロジェクトだったが、発注者や施工業者をはじめとするステークホルダーと緊密に連携し、事業を推進した」と振り返った。

建設開始から約1年間という短期間で最初の1駅区間の列車走行を実現したほか、急速施工としてインドネシアでの最速記録を樹立した。また、密集した都市環境下で難易度の高い長大橋の建設も安全に完遂した。

16日に開かれた式典には、インドネシアのプラボウォ・スビアント大統領やジャカルタ州のプラモノ・アヌン知事、インドネシア運輸大臣ら多数の中央政府・地方政府関係者が出席した。出席者からは、

新路線の開業を祝う言葉とともに、全関係者の尽力に対し、温かいねぎらいの言葉が述べられた。

同路線の将来延伸として、マンガライ駅からドウクアタス駅までの延長や北上をして内環状線を形成する計画も描かれており、国際協力機関や外国資金援助によらない非ODA（政府開発援助）プロジェクトとして計画されている。

